

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成22年3月調査結果

現在の景気の現状判断は、デフレなどの影響が薄れていることから、先月に比べ1.8%ポイントさらに戻してDI値が26.2%ポイントと、非常に厳しい状況から脱する判断となっています。特に、家計動向関連の飲食観光関連で8.0%ポイント上げて29.2%ポイントと非常に厳しい状況から脱する結果となっています。

ただ、雇用関連で6.0%ポイント下げ、33.3%ポイントと厳しい状況が強まる現状判断となっています。

次に1年前と比べた場合の景気の現状判断は、先月より4.8%ポイント改善のDI値34.0%ポイントとなり、内訳では小売関連と飲食観光関連で4.2%ポイント、10.0%ポイントとそれぞれ改善したものの、サービス関連で7.1%ポイント悪化となり、雇用関連では、12.5%ポイント改善し62.5%ポイントと回復を示す現状判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断でも、先月より10.8%ポイント改善の44.1%ポイントで、特に飲食観光関連で28.7%ポイントの大幅に改善し、47.9%ポイントと回復の兆しを示しています。また、雇用関連は58.3%ポイントと回復傾向がさらに強まる結果となっています。

さらに3～6ヶ月先の景気の先行き判断は、先月に引続き3.6%ポイント改善を見込み46.5%ポイントになり、特に飲食観光関連では54.2%ポイントと大幅な改善を見込む結果となっています。

雇用関連も、54.2%ポイントと回復傾向を見込む予想となっています。

◎全体的には、消費の低迷、低価格志向や節約志向はあるものの、ほぼ改善傾向を示し、先行きについても改善傾向を示す見込みとなっています。

雇用関連は、回復傾向にあります。先行きの不安がまだ少しあるものと思われ。ます。

平成22年4月16日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は3月3日まで)

○有効回答率

93.3% 有効回答客体 42名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「DI」といいます。

「DI」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 DI値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、DI値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4			⇒ ほんの少し景気が後退している	

となります。

調査の結果

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、デフレや円高などの影響が薄れていることから、先月に比べさらに1.8%ポイント上げてD I値が26.2%ポイントと、非常に厳しい状況から脱する判断となっています。

内訳では、家計動向関連で小売関連がほぼ横ばいの23.6%ポイントで、飲食観光関連で8.0%ポイント改善し29.2%ポイントと非常に厳しい状況から脱し、サービス関連でも4.8%ポイント戻して21.5%ポイントと改善しましたが、まだ非常に厳しい状況が続く現状判断となっています。

また、雇用関連では、過去最高の先月から6.0%ポイントと下げて33.3%ポイントと、厳しい状況が続く現状判断となっています。

表1 2月構成比

	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	7.1	19.1	45.2	28.6	0.0	26.2
家計動向関連	0.0	5.6	19.4	44.4	30.6	0.0	25.0
小売関連	0.0	5.9	11.8	52.9	29.4	0.0	23.6
飲食観光関連	0.0	8.3	25.0	41.7	25.0	0.0	29.2
サービス関連	0.0	0.0	28.6	28.6	42.8	0.0	21.5
雇用関連	0.0	16.7	16.6	50.0	16.7	0.0	33.3

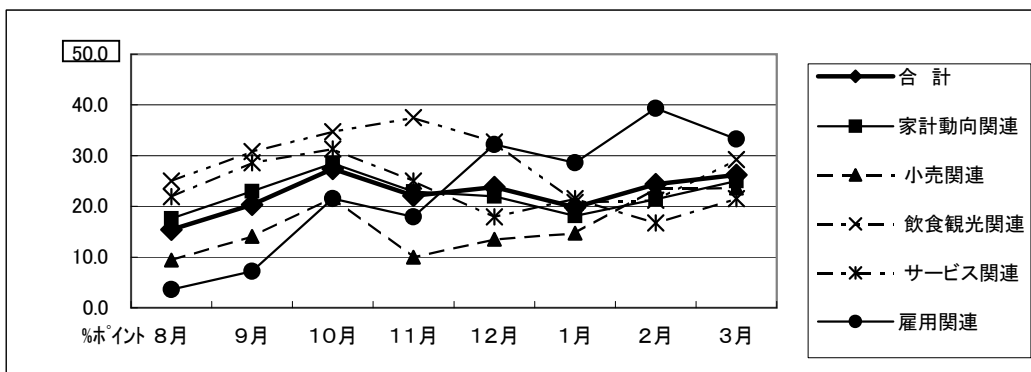
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2009	10	0.0	7.0	27.9	32.6	32.5	0.0	27.4
	11	2.4	11.9	2.4	38.1	45.2	0.0	22.1
	12	0.0	2.5	22.5	37.5	35.0	2.5	23.8
2010	1	0.0	2.3	20.9	30.3	46.5	0.0	19.8
	2	0.0	11.9	16.7	28.6	42.8	0.0	24.4
	3	0.0	7.1	19.1	45.2	28.6	0.0	26.2
	(前月差)	(0.0)	(-4.8)	(2.4)	(16.6)	(-14.2)	(0.0)	(1.8)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年			2010年			(前月差)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
合計	27.4	22.1	23.8	19.8	24.4	26.2	(1.8)
家計動向関連	28.5	22.9	22.0	18.1	21.4	25.0	(3.6)
小売関連	21.7	10.0	13.5	14.7	23.5	23.6	(0.1)
飲食観光関連	34.7	37.5	32.7	20.8	21.2	29.2	(8.0)
サービス関連	31.3	25.0	17.9	21.5	16.7	21.5	(4.8)
雇用関連	21.5	17.9	32.2	28.6	39.3	33.3	(-6.0)



2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、先月と比べ4.8%改善の34.0%と、厳しい状況が続く現状判断となっています。

内訳では、小売関連で4.2%改善の32.4%と厳しい状況が続き、飲食観光関連で10.0%戻して31.2%と非常に厳しい状況を脱し、逆にサービス関係で7.1%下げて17.9%と、さらに非常に厳しい状況となっています。

また、雇用関連は12.5%と大幅に改善し62.5%と回復を示す現状判断となっています。

表1 2月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	16.7	23.8	38.1	21.4	0.0	34.0
家計動向関連	0.0	8.3	25.0	41.7	25.0	0.0	29.2
小売関連	0.0	5.9	35.3	41.2	17.6	0.0	32.4
飲食観光関連	0.0	8.3	25.0	50.0	16.7	0.0	31.2
サービス関連	0.0	14.3	0.0	28.6	57.1	0.0	17.9
雇用関連	0.0	66.6	16.7	16.7	0.0	0.0	62.5

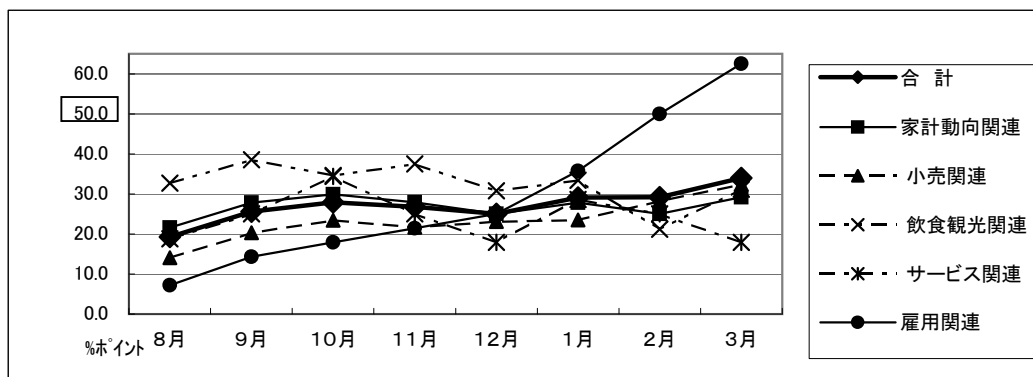
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2009	10	0.0	7.0	27.9	34.9	30.2	0.0	27.9
	11	4.8	2.4	19.0	42.9	30.9	0.0	26.8
	12	0.0	2.5	25.0	42.5	30.0	0.0	25.0
2010	1	0.0	9.3	27.9	27.9	32.6	2.3	29.1
	2	0.0	21.4	19.1	14.3	45.2	0.0	29.2
	3	0.0	16.7	23.8	38.1	21.4	0.0	34.0
	(前月差)	(0.0)	(-4.7)	(4.7)	(23.8)	(-23.8)	(0.0)	(4.8)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年			2010年			(前月差)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
合計	27.9	26.8	25.0	29.1	29.2	34.0	(4.8)
家計動向関連	29.9	27.9	25.0	27.8	25.0	29.2	(4.2)
小売関連	23.4	21.7	23.1	23.5	28.2	32.4	(4.2)
飲食観光関連	34.6	37.5	30.8	33.4	21.2	31.2	(10.0)
サービス関連	34.4	25.0	17.9	28.6	25.0	17.9	(-7.1)
雇用関連	17.9	21.4	25.0	35.7	50.0	62.5	(12.5)



2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、先月に比べ10.8%ポイントと大幅な改善の44.1%ポイントと、厳しい状況を脱する現状判断となっています。

内訳は、飲食観光関連が先月の19.2%ポイントから47.9%ポイントと28.7%ポイントの大幅な改善により、回復の兆しを示し、小売関連とサービス関連は5.4%ポイント、2.3%ポイントそれぞれ改善しましたが、依然厳しい状況が続く現状判断となっています。

また、雇用関連は、先月と比べ1.1%ポイントの小幅な改善で、58.3%ポイントと回復傾向がさらに強まる結果となっています。

表1 2月構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
合計	2.4	21.4	40.5	21.4	14.3	0.0	44.1
家計動向関連	2.8	19.4	36.1	25.0	16.7	0.0	41.7
小売関連	0.0	17.7	41.2	23.5	17.6	0.0	39.8
飲食観光関連	8.3	25.0	25.0	33.4	8.3	0.0	47.9
サービス関連	0.0	14.3	42.8	14.3	28.6	0.0	35.7
雇用関連	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	58.3

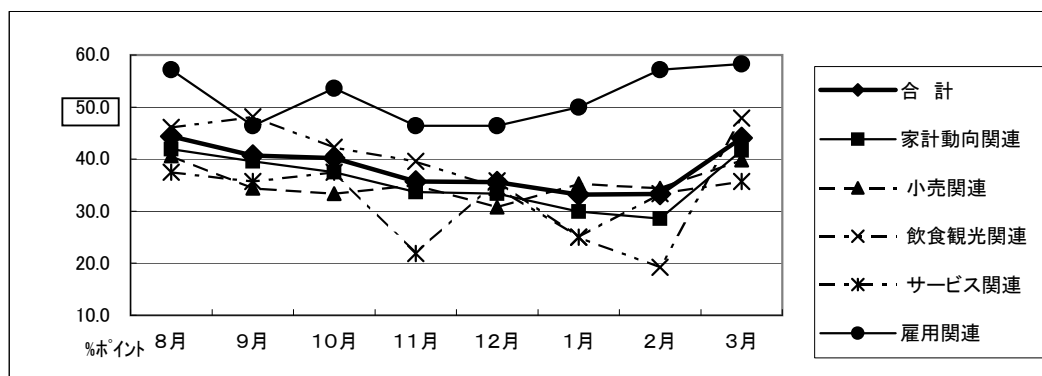
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
2009	10	2.4	9.3	46.5	30.2	11.6	0.0	40.2
	11	2.4	9.5	33.3	38.1	16.7	0.0	35.7
	12	0.0	15.0	35.0	27.5	22.5	0.0	35.6
2010	1	0.0	4.7	46.5	20.9	25.6	2.3	33.2
	2	0.0	9.5	40.5	23.8	26.2	0.0	33.3
	3	2.4	21.4	40.5	21.4	14.3	0.0	44.1
(前月差)		(2.4)	(11.9)	(0.0)	(-2.4)	(-11.9)	(0.0)	(10.8)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年			2010年			(前月差)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
合計	40.2	35.7	35.6	33.2	33.3	44.1	(10.8)
家計動向関連	37.5	33.7	33.4	29.9	28.6	41.7	(13.1)
小売関連	33.4	35.0	30.8	35.3	34.4	39.8	(5.4)
飲食観光関連	42.3	39.6	34.6	25.0	19.2	47.9	(28.7)
サービス関連	37.5	21.9	35.8	25.0	33.4	35.7	(2.3)
雇用関連	53.6	46.4	46.4	50.0	57.2	58.3	(1.1)



2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、安い物しか売れないなどから「単価の動き」と「お客様の様子」が47.1%と高く、続いて、来客数の減少とそれに伴う販売量の減少などの理由から「来客数の動き」と「販売量の動き」が41.2%となっています。

飲食観光関連でも、観光客の増加から「来客数の動き」が75.0%と先月と逆の意味で、突出して大きくなっています。

サービス業関連でも、来店者の行動から「お客様の様子」が57.1%、来客数の減少から「来客数の動き」が42.7%と大きくなっています。

次に、雇用関連では、有効求人倍率や求人状況から「求人数の動き」が50.0%と高くなっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	52.8	27.8	33.3	38.9	2.8	2.8
小売関連	41.2	41.2	47.1	47.1	0.0	0.0
飲食観光関連	75.0	16.7	25.0	16.7	0.0	8.3
サービス関連	42.9	14.3	14.3	57.1	14.3	0.0

	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	50.0	16.7	0.0	33.3	33.3	33.3

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、先月と比べ3.6%ポイント上げて、46.5%ポイントと回復の兆しを見込む予想となっています。

内訳は、飲食観光関連が4.2%ポイントの改善を見込み、54.2%ポイントと春の観光シーズンをさらに期待し、小売関連も2.1%ポイント上げて42.7%ポイントと改善を見込み、サービス関連も6.5%ポイント上げて35.7%ポイントと改善したものの厳しい状況が続く予想となっています。

また、雇用関連では、先月と比べ7.8%ポイント改善し、54.2%ポイントと回復傾向を見込む予想となっています。

表1 2月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	2.4	19.1	50.0	19.0	9.5	0.0	46.5
家計動向関連	2.8	19.4	44.5	22.2	11.1	0.0	45.2
小売関連	0.0	11.8	52.9	29.4	5.9	0.0	42.7
飲食観光関連	8.3	33.3	33.4	16.7	8.3	0.0	54.2
サービス関連	0.0	14.3	42.8	14.3	28.6	0.0	35.7
雇用関連	0.0	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0	54.2

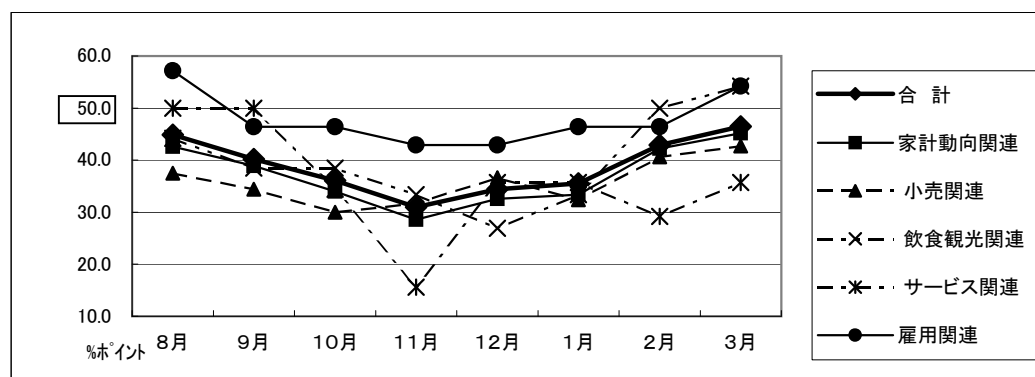
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2009	10	0.0	7.0	46.5	30.2	16.3	0.0	36.1
	11	0.0	7.1	31.0	35.7	23.8	2.4	31.0
	12	0.0	7.5	37.5	35.0	17.5	2.5	34.4
2010	1	2.3	4.7	44.2	25.6	20.9	2.3	35.5
	2	2.4	7.1	52.4	26.2	7.1	4.8	42.9
	3	2.4	19.1	50.0	19.0	9.5	0.0	46.5
	(前月差)	(0.0)	(12.0)	(-2.4)	(-7.2)	(2.4)	(-4.8)	(3.6)

表3 景気の先行き判断D I 値

	2009年			2010年			(前月差)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
合計	36.1	31.0	34.4	35.5	42.9	46.5	(3.6)
家計動向関連	34.0	28.6	32.6	33.4	42.2	45.2	(3.0)
小売関連	30.0	31.7	36.6	32.4	40.6	42.7	(2.1)
飲食観光関連	38.5	33.4	26.9	33.4	50.0	54.2	(4.2)
サービス関連	34.4	15.6	35.7	35.7	29.2	35.7	(6.5)
雇用関連	46.4	42.9	42.9	46.4	46.4	54.2	(7.8)



景気の現状判断の理由

分野	景気判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	3ヶ月前	1年前			
家 計 動 向 関 連	良くなっている	やや悪くなっている	観光案内所	来客数と販売量の動き	・今年の入館者数が昨年より下回っている。
	やや良くなっている	やや良くなっている	小売店	来客数の動き	・あいかわらず販売単価は低いですが、来客数、買い方をみると多少良くなっているように思う。
			スナック	来客数の動きとお客様の様子	・春になって来て、定年や異動で利用される方がふえた為だと思います。安くて、近場を選んで下さる結果だと思います。
			金融機関	お客様の様子	・業種によって違いはあるが、製造業においては、中国経済の成長にあり同国向けの販売が増加している。一方では建設業においては受注を確保するのが精一杯で、利益確保まで至っていない。
	変わらない	変わらない	小売店	販売量と単価の動き	・個店の努力しだい。
			スーパー	販売量と単価の動き	・個店の努力しだい。
			道の駅	来客数の動き	・雪が少ないこともあり、人出につながったのではと思います。
	悪くなっている	悪くなっている	旅館	来客数の動き	宿泊予約が少しは入る様になりました。花の季節は少しは動きがある様です。
			小売店	お客様の様子	—
	変わらない	変わらない	小売店	お客様の様子	・安い物しか売れない。
			スーパー	単価の動き	—
			家電販売店	来客数、販売量の動きとお客様の様子	・テレビに集中、エコポイントの対象商品が4割減の情報と販社の4月対象外商品の売切りもあって、テレビは良かったが、その他がダメ、結果、そんなによくなっているようにおもえない。
			レストラン	来客数の動き	・人の動く週末の天候が不安定だった。
			ホテル	来客数と単価の動き	・マーケットの動きが悪い気がする。安い商品の販売が多くなってきている。
			商店街関係者	単価の動き	—
			商店街関係者	来客数の動きとお客様の様子	・彼岸の連休で少し客足が動いたが、月末は寒さかもどり、お客様が少なくなった。
			小売店	来客数、単価の動きとお客様の様子	・高額商品の動きが悪い。
			居酒屋	来客数と単価の動き	—
			金融機関	来客数の動きとお客様の様子	・貯金が出る方が多い、自営業者が新しい事業を展開するもののコストがかかりすぎている。6月からの子供手当にしても、反応が鈍い。
	悪くなっている	悪くなっている	理容室	来客数の動き	—
タクシー運転手			お客様の様子	・全く、景気が相変わらず変わらないです。お得意様の利用が減っている。相変わらず町を歩く人が少ない。	
やや悪くなっている	やや悪くなっている	商店街関係者	お客様の様子	・本当にほしい物は購入意欲も感じられるが、それ以外にはあまり興味を示さない。	

		小売店	販売量の動き	・安い商品が動く。
		スーパー	お客様の様子	・気候の不安定さからくる青果物の値上げにより、買い控えがある様です。必要な物以外購入しない方が増えています。
		自動車販売	来客数、単価の動きとお客様の様子	・3月に入り多少来客数、商談件数が回復のきざし。
		飲食店	来客数と販売量の動き	・この時期はいろいろな出費が多くなる。(不景気に関係なく。)
		レストラン	来客数の動き	—
		旅館	—	—
		旅行代理店	お客様の様子	・来客される方の予算が少なくなっている。
	悪くなっている	福祉施設	販売量の動き	・洋服等値段が下がっても売れていない。
悪くなっている	悪くなっている	商店街関係者	来客数の動き	・商店街の中を人が通っていない。
		小売店	販売量と単価の動き	・客単価が大きく減少し、販売する商品量も減少している。
		小売店	来客数、販売量、単価の動きとお客様の様子	・小売、飲食、サービス、すべての分野でよくない話ばかりをきいています。
		道の駅	単価の動き	—
		美容室	来客数の動き	・来客が少ない。来客日数が伸びている。
		タクシー運転手	単価の動きとお客様、競争相手の様子	・今までの客でも利用回数が減っている。
雇用関連	やや良くなっている	労働金庫	各種ローン相談の増加	・住宅ローンや自動車ローンの相談及び申込が増加した。
	やや良くなっている	自治体労働政策担当	求人数の動きと事業主の話しぶり、態度などに明るさが戻った。	・有効求人倍率の推移 H21. 2⇒0.64 H21. 12⇒0.72 H22. 2⇒0.63
	変わらない	職業安定所	求人数、求職者数の動き	・新規求職者数は、12月以降対前年比マイナスで推移している。
		労働相談所	求人数の動きと周辺企業の様子	・有効求人倍率が序々の上がってきていたが、1月はダウン0.72⇒0.65に、その要因は、新規の求人が減少したためである。
	変わらない	人材派遣会社	雇用形態の様子	・雇用面からみて、4月以降若者の失業者が増える恐れがある。先行きな注意が必要。
やや悪くなっている	学校就職担当	雇用形態、周辺企業の様子	・市内の企業の状況を見聞きする中では、仕事が増えたとか、正社員を採用したいとかいう話しはほとんどない。	

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
家 計 動 向 関 連	良くなる	観光案内所	・観光客の増加を見込んでいる。
	やや良くなる	小売店	・春先ということもあるが、多少、購買意欲が上向いているようなムードがあるが、これで水を差すようなことがおこらず上昇して欲しいと思います。
		自動車販売	・景気がここにきてやっとよくなりつつあるかなアと思えるようになった。
		道の駅	・集客効果のある取り組みの実施。
		飲食店	・暖かくなってくれば人が動くのでは。（遠方より。）
		スナック	・消費者がとてもしこく、お金を使うようになって来ているので、やはりお店側もお値打ちに、お客様を裏切らないように、真心を込めてやっていかなくては、いけないと思います。活気づくわりには、利益は、少ないかもしれませんが、昔の原点に戻れば、そんなものだと思います。
		居酒屋	－
		金融機関	・海外（特に中国）向けの製品を取扱う業種では、今後景気が回復してくるものと予測している。
		変わらない	商店街関係者
	商店街関係者		・依然としてデフレ傾向にあり、しばらくは我慢が必要だと思う。
	商店街関係者		・なかなか景気が良くなるような気がしない。
	小売店		－
	小売店		－
	小売店		・良くない形態が続くと思う。
	小売店		・これ以上悪くなるとは思えないが上向く材料が無い、したがって変わらない。
	スーパー		－
	スーパー		－
	道の駅		－
	レストラン		・農産物が豊富になる季節なので人の動きに期待する。
	ホテル		－
旅行代理店	・観光客の増加を見込んでいる。		
金融機関	・農家の自給率向上のために、水田利活用自給率向上事業や米戸別所得補償モデル事業が始まるが、交付金も12月と遅く、担い手不足と機械化による支払いが多額になっている為、景気が上がるとは思えない。		

		理容室	—
		タクシー運転手	・このままでは変わらない。相変わらずの活気では、変わりようがありません。特に市街地から離れた郊外では。市の中心部だけが活気つける行動しているようですが、郊外でも同じよう行動してほしい。
やや悪くなる		商店街関係者	—
		小売店	・実感のない景気回復。
		小売店	・給料が減少し、残業も少なくなっている。
		スーパー	—
		家電販売店	・4月～6月は、テレビの生産が受注においつかなくなり、商品がまにあわないのと、新商品がでてくることで、テレビの売上にブレーキがかかる。
		レストラン	—
		旅館	—
		美容室	・良くなる要素がない。
悪くなる		小売店	—
		旅館	・宿泊客数が減っている事、お客様の料金の低額化。
		福祉施設	・今年も就職先がないといわれており、来年はもっと企業が募集を控えるといわれているため。
		タクシー運転手	・自家用車の利用が益々増えてくるとされる。
雇用関連	やや良くなる	自治体労働政策担当	・製造業は一部需要増から生産を拡大しつつある。雇用状況は今後も改善が見込まれる。
	変わらない	職業安定所	・求人が低調のままである。
		労働金庫	・内需を拡大しない限り、今の状況が続くと思います。→抜本的な税制改革により、個人の大幅減税が必要である。敢て言えば、子供手当実施、高校授業料無償化により、少々消費の拡大が期待できるかも知れない。
		学校就職担当	・経済不況から脱した、あるいは脱しつつあるという情報はないし、実感もない。雇用もなかなか改善されないの見通しは、よくない。
		人材派遣会社	・景況感是一部上昇のきざしがみえるものの、雇用環境は更に厳しくなるとされる。
		労働相談所	・変わる要素が見当たらない、国の予算成立後の変化は、2～3ヶ月おくれになる。